

#### 6-4-1 国指定重要文化財（建造物）国分寺本堂

単層入母屋造、銅板葺  
四方廻縁  
桁行 12.4 メートル  
梁間 8.66 メートル  
向拝 3.33 メートル

奈良時代当時、七重塔、金堂、仁王門などを備えた壮大な伽藍があったと伝わる。『類聚国史』に「弘仁十年（819）八月飛驒国国分寺災」とあるが、その後、近世まで記録がない。昭和 29 年（1954）、本堂の解体修理時に、建築様式と手法は室町時代中期以前、正面向拝と東側は桃山時代の修理であることがわかった。向拝等は金森氏が国分寺の再興を助けた際の大修理と考えられる。地下 45 センチメートルには、南北 4 間、東西 7 間の金堂と推定される建物の礎石が確認された。

建物の柱、垂木、構造材は太い。外陣の虹梁は絵様がなく、板葺の断面も逆バチ型で室町期の様式を示す。

昭和 42 年 4 月 5 日指定

高山市教育委員会

説明板より